

神戸女学院大学 心理学部 心理学科 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第3号

特例子会社にて見学実習をさせていただきました



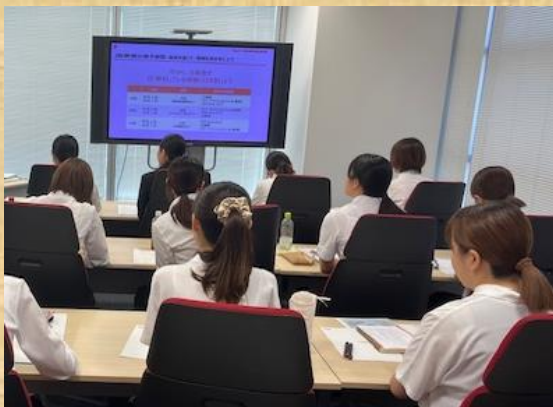
3年生の授業(ソーシャルワーク演習)において、ヤンマーシンビオシス株式会社(特例子会社)へ見学に行かせていただきました。

健康・サポート室の精神保健福祉士 川島様より障害者雇用の現状や社内の支援体制などについてお話を伺いました。社内見学では、働かれている方々から業務内容、仕事をする上での工夫や、やりがいなどをお聞かせいただきました。障害者雇用や支援についての理解を深めるとともに、精神保健福祉士としての価値観や倫理観についても学ぶ貴重な機会となりました。



参加した3年生の感想

・川島様のお話で特に印象に残ったのは、「多様な人と出会い、様々な経験をして、自分の価値観や倫理観を知る」と「苦労や問題をその人自身で解決していく過程に関わる」という言葉です。精神保健福祉士になることができた場合には、クライアントや他職種の方との関わりを通して、自分自身の性格や特性を知るための自己覚知や専門職としての考え方の見直しを行うべきだと思いました。また、クライアントの意志や自立を妨げない距離感と配慮の重要性についても学びました。



・見学で印象的だったのは、私たち学生にその部門の作業や仕事内容について説明してくださった方の表情でした。皆様とても笑顔で、説明されている時や我々学生の質問に答えてくださっている時の様子などからご自身の仕事に誇りをもっていらっしゃると感じました。

・今回3人の社員さんのお話を聞きましたが、その場では障害を持たれていることが分かりませんでした。障害があったとしても、その人が出来ることは何かを配慮して、本人がもつ力を十分に発揮できるような環境づくりの必要性を感じました。

・質疑応答の場面で、どのようにサポートしているのかについては、正解はないので明確に答えられないとお聞きし、サポートするということは、型にはまったものではなく、課題を抱えている人それぞれに方法があって、たくさん悩みながら行うことなのだと分かりました。

・企業は一定数の障害者を雇わなければならない障害者雇用制度がありますが、障害が一括りに捉えられていたり、障害に対して誤解や偏見を持ち、障害者を雇うことに積極的ではない企業も多い現状があることを知りました。精神保健福祉士として正しい情報を伝えてその誤解や偏見を軽減・除去することは大切な役割のように感じました。

ヤンマーシンビオシス株式会社の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

